



第2戦 鈴鹿サーキット

雨のレースで2台ともに完走。石浦は8位、1ポイント獲得。

開幕戦から約1ヶ月半のインターバルを経て、第2戦は鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて行われた。今年は鈴鹿での事前テストが行われなかったため、FN09での鈴鹿初走行となった。今回はレース中のピットイン義務付けがなく、約250kmのレースをノーピットで戦うのか、またピット作業を行うにしても給油だけ、タイヤ交換だけといったオプションも考えられ、それらを含めた作戦も今回の見所となった。

5月16日(土)、朝の小雨がだんだんと激しくなり、予選が開始される13:45になると、路面は完全なウェット状態に。Q1が開始されると、石浦、国本ともにコースイン。国本は一度もピットに入ることなく20分間走行し、2'02.840で12番手。惜しくもQ2へは進めず、ここで予選終了となった。一方の石浦は、後半に一度ピットインして燃料を補給し、最後の計測周に2'01.793で10番手を獲得し、Q2へと進んだ。10分間のインターバルがあり、14:15からの10分間でQ2が開始。路面には水たまりが見受けられるほどに雨脚が強まり、全車タイムを伸ばすことは出来ない。石浦は2'06.785で10番手。8台通過のQ3へは駒を進められず、決勝は10位スタートと決定した。

5月17日(日)、前日の雨はいったん上がり、空は曇り。この日は約12,000人の観客がサーキットへ足を運んだ。朝9:30からのフリー走行は、路面はところどころ濡れている部分もあるもののドライコンディションの中で行われた。石浦は1'44.009で4番手を獲得。国本は13番手。

決勝レースを前に、お昼を過ぎた頃からポツポツ雨粒が落ち始める。微妙な天候の下、チームルマンの2台もグリッドへウェット、スリック両方のタイヤを用意。マシンがグリッドについた頃には完全なウェットコンディションとなり、全車ウェットタイヤを装着してスタート。オープニングラップでの混乱を避け、1周を終えて石浦9番手、国本10番手と2台ともポジションアップ。

国本はノーピットの作戦で、スタート時には満タンのガソリンを搭載。4周で11番手に後退するも、8周目には9番手、19周で他車のリタイヤにより8番手に浮上。燃料が軽くなっていく毎に自己ベストを更新しながら前を追うものの、その差は縮まらない。後半になると燃料をセーブしながらの走行となったが、41周でまさかのストップ。チェッカーは受けられなかったものの、規定周回数をこなしていたため完走扱いとなった。

石浦は他車より早いレース序盤、7周を終えたところでピットイン。タイヤ交換、給油を行い再びコースへ。12番手を走行していたが、他車の戦線離脱により20周には9番手に浮上。国本を追う格好となったが、石浦の方が若干ペースが速く、徐々にその差を縮めて行く。国本が41周でストップすると、8番手に順位を上げた。1周遅れでチェッカーを受け、1ポイントを獲得した。

土沼広芳 監督のコメント

「鈴鹿は今年事前テストが行われず、レースでの初走行となりました。フォーミュラ・ニッポンはとにかく予選順位を上げて、上のグリッドからスタートすることが大事なので、今回のレース結果には予選順位の不振が響いていると思います。開幕戦に続き、今回もいろいろな問題が起きました。その原因をドライバー含めチーム全員で改善し、強豪ドライバー達に少しでも近付き、もう一段階上で勝負できるよう努力します。」

#7 国本京佑のコメント

「フォーミュラ・ニッポンで鈴鹿を走るのは今回が初めてで、予選前に行われた1時間のフリー走行では、十分な練習時間とは言えませんでした。予選は感触をつかめないままQ1で敗退…とても悔しく、残念です。決勝は後方からのスタートでしたが、1つでも順位を上げようとプッシュしましたが、タイムは全く上がらず苦しい展開になりました。きちんと原因を考えてそれを改善し、茂木に臨みたいと思います。」

#8 石浦宏明のコメント

「予選はQ1でリアのグリップがなく、Q2の前に色々セッティングを変えて臨みました。ところが激しい雨の中、それが良い方向には行かず、さらにはタイヤをヒートさせてしまって、予選結果は10位に甘んじることになりました。予選の後に調べても、トラブルらしいトラブルは見つかりませんでした。ところが決勝でも結局同じことが起き、走り始めて2~3周ですでにグリップがなく、マシンはフラフラの状態でした。ただ朝のフリー走行でドライで走った感触は良かったので、次は同じことにならないように問題点を改善して頑張ります。」